

4月19日は「良いきゅうりの日」！ 西尾市へ185kg寄贈＆出前授業を開催



愛知県西尾市は、県内キュウリ生産の中心地。

愛知県では冬から春にかけて加温されたハウスの中で栽培を行う「冬春キュウリ」が主流で11月から6月上旬頃まで出荷を行っており、4月下旬から5月上旬は冬春キュウリの生産量が一番多くなるシーズンです。

この時期の消費拡大を狙い、ブランドキュウリ「三河みどり」の消費PRにつなげようと「良(4)い(1)きゅう(9)り」の語呂合わせにちなんで、4月19日は『良いきゅうりの日』と制定。今年は市へキュウリを寄贈するとともに、地元小学校とオンラインをつないで出前授業を行います。

※「良いきゅうりの日」は、西尾市のJA西三河きゅうり部会と碧南・安城市を中心としたJAあいち中央胡瓜生産部会の2部会で構成する「西三河冬春きゅうり部会」が設定(平成19年に日本記念日協会に登録)。

JA西三河冬春きゅうり部会
(西尾市)

JAあいち中央胡瓜生産部会
(安城・碧南・高浜・刈谷・知立市)

西三河冬春きゅうり部会
(共計共販組織)



▲ふれあい給食で恒例の
「キュウリの丸かじり」



▲キュウリの出前授業

■マスコミ対応 (キュウリ寄贈)■

【日時】4月16日(金) 9:30～9:45

【場所】西尾市役所 秘書広報広聴課 応接室1

【部会側出席者】

JA西三河きゅうり部会 伊藤高義部会長
太田孝夫副部会長
織田和弘さん
(キャラクター利用委員長)

★給食用として西尾市・安城市へ計490.5kgの
キュウリを寄贈します。
(うち、西尾市は市内小・中学校へ計185.5kgを寄贈)

■キュウリの出前授業■

【日時】4月16日(金) 11:45～12:45

【場所】西尾市立白浜小学校 (5年生の教室)

※コロナ対策のため、今年もふれあい給食を中止します。

「良いきゅうりの日」制定の翌年より、
西三河冬春きゅうり部会では
出前授業やふれあい給食・寄贈を実施。
「地元のキュウリはおいしい！」と児童に
知ってもらい、地域農業と食に対する
関心を高める取組を展開しています



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河 (西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当: 尾形怜美

TEL: 0563-56-5214 担当者携帯: 070-1414-6818

HP: <http://www.ja-nishimikawa.or.jp/> Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループ愛知記者会あてに発信しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料 (ニュースリリース)」ページにも掲載しています。

全国トップクラスの生産技術を誇るJA西三河きゅうり部会

部会全体でスマート農業加速、県内有数のキュウリ産地を支えるヒミツ

JA西三河きゅうり部会では平成27年より、他産地に先駆けて部会全体で農業用ICTツールを積極的に活用しています。導入以後、**1反当たりの収量・販売金額は約15%アップ**しており、技術力の高い農家による栽培環境・肥培管理のノウハウを共有することで産地の高度化を図っています。

また農林水産省の平成31年度スマート農業技術の開発・実証プロジェクトに採択され、「ICTに基づく養液栽培から販売による施設キュウリのデータ駆動経営一貫体系の実証」を進め、スマート農業を加速。今年1月には同プロジェクトを通じて実用化したLAI計測センサー(LAI:Leaf Area Index)を部会員全員のハウスに設置し、葉面積指数を計測して樹勢や灌水の目安に役立てています。



LAIセンサーの取り付け作業



▲JA選果場で選別

■西三河地域のブランドキュウリ「三河みどり」

西尾市の冬春キュウリ生産者で組織する「JA西三河きゅうり部会」と、安城・碧南・高浜・刈谷・知立の5市のキュウリ生産者で組織する「JAあいち中央胡瓜生産部会」は、ともに共計共販組織「西三河冬春きゅうり部会」を組織し、**「三河みどり」のブランド名でキュウリを販売しています。**その出荷量は、県内で生産される冬春キュウリのおよそ半分を占めています。



鮮度の高さはピカイチ！ ICTで高品質を安定出荷

主に県内市場へ出荷しているため、消費者のもとへ届くまでの期間が短く、他産地よりも新鮮な状態で消費者のもとへ届きます。また部会内でのノウハウの共有やICT機器を活用した厳密な栽培環境制御などに取り組み、より高品質なキュウリ生産につなげています。

【組織情報】(部会員数・出荷量等は2019年度)

名称:西三河冬春きゅうり部会

部会員数:91人(西尾市のJA西三河きゅうり部会、碧南・安城市中心のJAあいち中央胡瓜生産部会の2部会で構成)

出荷先:愛知県内(約60%)をメインに、東海・北陸地方

出荷量:5,060トン(愛知県の冬春キュウリ生産量の50%以上)

販売額:16億1,000万円

(全国の生産概況)

全国のキュウリ出荷量:474,700トン(うち冬春キュウリ:272,100トン)

愛知県のキュウリ出荷量:12,000トン(うち冬春キュウリ:10,300トン)

データ:農林水産省 作況調査(野菜)令和元年産公表資料

http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_yasai/index.html

10反当たりの収量(反収)は

全国平均の2.6倍!

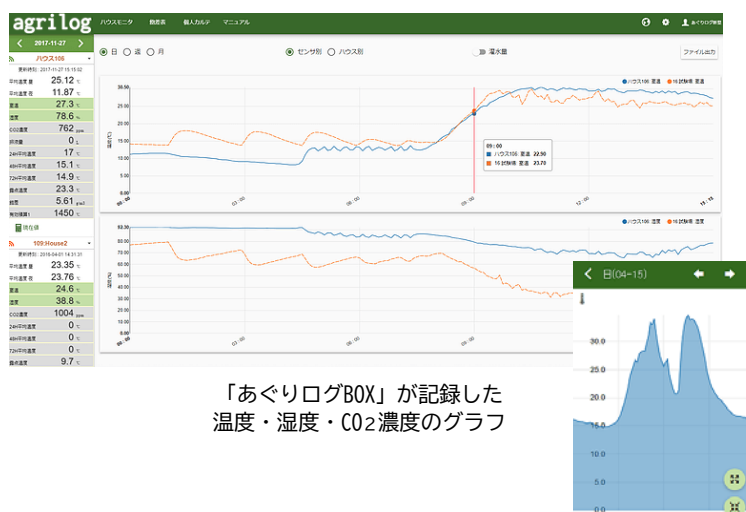
高い技術力で高反収を実現

産地全体で取り組む農業用ICTツールの活用・普及

先進農家の知恵を共有し、産地のレベル底上げ

◆生産者や企業とともに 「農業用ICTツール」を開発

JA西三河は2014年度より、農家所得増大をめざす自己改革の一環として、農業用ICTツールを活用した施設園芸の高度化を進めています。開発にあたっては技術力の高い農家やIT企業と緊密に連携し、現場のニーズに即した使いやすいツールを作り上げました。開発したのは環境測定器「あぐりログBOX」と食・農クラウド「Akisai(秋彩)」の2種。



「あぐりログBOX」が記録した
温度・湿度・CO2濃度のグラフ



「あぐりログBOX」

☞環境測定器「あぐりログBOX」は、ハウス内の温度・湿度・CO2濃度を5分間隔で測定しサーバ上に保存。温度・湿度等の変化はパソコンやスマートフォンでいつでもリアルタイムに確認でき、他の生産者との比較も可能。ハウス環境を「見える化」し、部会全体で活発的な情報共有を行っています。

☞食・農クラウド「Akisai(秋彩)」は、農業生産管理システムで、ほ場ごとの栽培計画や施肥・防除などの作業内容を記録。入力したデータは、いつでもパソコンやスマートフォンを通して確認でき、作業の振り返りに役立っています。

JA西三河きゅうり部会の他にもイチゴ、トマト、ハウスイチジク、バラ、菊の各部会でも農業用ICTツールの活用が進んでおり、管内での利用数は「Akisai」56名、「あぐりログBOX」141台。温度・湿度やCO2濃度等の環境測定データや栽培履歴を共有して栽培技術の可視化を図り、持続可能な農業生産を支えています。

【JA西三河きゅうり部会 取組年表】

2013年度より

各種モニタリング機器のテストを開始

2015年3月

農業用ICTツール「あぐりログBOX」・
「Akisai」試験導入

2015年11月

農業用ICTツール「あぐりログBOX」・
「Akisai」本格導入
(キュウリに続き、イチゴなどの施設野菜や
バラ・キクなどの花き農家も続々と導入)

2016年

冬春キュウリの養液栽培実証試験

2019年6月

農林水産省平成31年度スマート農業
技術の開発・実証プロジェクト、開始

2021年1月

葉面積を計測する「LAI計測センサー」を
部会員全員が導入

◆ICT利用の先駆け！

JA西三河きゅうり部会の取組

JA西三河きゅうり部会は、農業用ICTツールを活用した情報共有や技術革新にいち早く取り組んでいます。

40人の部会員全員が環境測定器「あぐりログBOX」と食・農クラウド「Akisai(秋彩)」を導入。ハウス内の温度・湿度・CO2濃度の推移や、農薬・肥料の施用の情報を共有し、部会内の委員会で検討を加え、ノウハウ化に取り組んでいます。レベルの高い取り組みを背景に生産者全体が高い技術力を持ち、**反収(10㎡あたりの収量)26.6トンは全国平均の2.6倍・国内トップクラス**を誇っています。

2016年には、農業用ICTツールの利用を通じた高度な環境管理の技術を背景に、冬春キュウリの養液栽培(ロックウールの培地に植物体を定植し、生育に必要な給液を与える栽培法)の実証試験をスタートしました。温度・湿度・CO2濃度といった地上部の環境測定・環境制御に加えて、**地下部・根域環境の「見える化」とコントロール**をめざし、養液栽培の技術を積み上げています。

JA西三河きゅうり部会青年部が取り組む情報発信

「Instagram」「Twitter」活用し、SNS世代にアプローチ！

◆きゅうりファン拡大をめざしてSNSの情報発信

コロナ禍により消費宣伝ができない中、生産者目線でSNS世代へアプローチすることで産地を盛り上げていこうと、2020年7月より「Instagram」と「Twitter」をスタート！

同部会では加温したハウスで栽培する「冬春キュウリ」を生産していることから夏場以外でもキュウリをおいしく食べてもらえるよう、調理法を紹介しようと思い立ったことがSNS活用のきっかけ。話題性を高めて、販促につないでいます。



SNSを活用して情報発信する青年部のメンバー

Instagram

JA西三河きゅうり部会青年部
nishimikawa kyuri



写真が主体となる「Instagram」では、キュウリを使ったアレンジレシピを紹介。毎日のメニューに悩む主婦層に向けて、キュウリのおいしい食べ方を提案しています。

Twitter

きゅりん。【西三河冬春きゅうり部会
マスコットキャラクター】
@kyuri_taberin



共計で取り組み！

即時性と拡散性が特徴の「Twitter」では、三河弁でお馴染みのマスコットキャラクター「きゅりん。」が部会活動をメインに吹き、地域農業への理解促進を図ります。

共計で
取り組み

部会キャラクター「きゅりん。」が大活躍！

西三河冬春きゅうり部会では、自分たちのキュウリを積極的にPRしようと、若手生産者を中心にして部会キャラクター「きゅりん。」を生み出しました。（「きゅりん。」の生みの親は、写真左端の織田和弘さん！！）

キュウリをモデルにした、ちょっと目つきの悪いキリンのような不思議な生き物。しっぽがキュウリの葉っぱで、ハート型になっているのがポイントです！

「きゅうりたべりん。（キュウリを食べましょう）」の三河弁から名付けられました。



西三河冬春きゅうり部会のキャラクター
「きゅりん。」

様々な「きゅりん。」グッズを展開しています



「きゅりん。」は、西三河冬春きゅうり部会が生産するブランドキュウリ「三河みどり」の出荷箱や部員の名刺などにデザインしているほか、Tシャツ・ポロシャツやシール、LINEスタンプなど多岐にわたり商品展開しています。

また地域のイベントに参加する際には部会員お手製の顔出しパネルを展示し、時代に対応したPR活動を行っています。



▶ 段ボールデザインも一新！

キュウリファンを増やすために SNSでキュウリの食べ方提案&キュウリ栽培などを紹介



Instagram アカウント名:JA西三河きゅうり部会青年部

★好評だったレシピ集



家族で楽しいおうち時間を
過ごせるようハロウィンや
クリスマス、ひな祭りなど
イベントに合わせてキュウリレシ
ピを紹介しています。



共計で
取組み

Twitter アカウント名:きゅりん。【西三河冬春きゅうり部会マスコットキャラクター】



「きゅりん。」目線でキュウリ生産について紹介し、地域農業への理解促進を図っています。
ブランドキュウリ「三河みどり」のPRも欠かしません!



きゅりん。【西三河冬春きゅうり部会...
@kyuri_tabin

出荷スタート/
今年度も遂に「JA西三河きゅうり部
会」と「JAあいち中央胡瓜生産部
会」共に出荷が始まったよ!
みんな今年も愛知県産きゅうり #三
河みどり をよろしくね!
もしかしたらスーパーで僕のバック
ページの袋を見かけるかも!
もし見つけたらツイートしてくれた
ら嬉しいな!



@kyuri_tabin

農家さんは毎日、炎天下の中でも一
生懸命野菜を作ってる。
大切な家族やお客さんのために。
それこそ熱中症になる事もある。
野菜を食べる時、農家さんの顔を思
い浮かべる事はありますか?
「あの元気がかな?」とか「あの人の
野菜はほんとに美味しい!」とか。
僕達はそんな身近な存在でありたい。



きゅりん。【西三河冬春きゅうり部会...
@kyuri_tabin

【きゅうりの水やりどうやるの?】
きゅうりの水やりはこのようなチュ
ーブを使ってる人が多いじゃん!!
これは灌水チューブのテスト中。
水の流れる音ってなんだか癒される
よね!
いよいよ来週から苗を植える部会員
さんも多いで、僕も産地のPR頑張ら
んとね!

